

info.

- ・学校教育課（役場内・☎ 23 - 2689）
- ・社会教育課（役場内・☎ 22 - 3834）
- ・子ども未来課（ゆとろ内・☎ 23 - 3024）

## 令和5年度保育施設 利用二次募集受付中

令和5年4月から保育施設の利用を希望される方は「教育・保育給付認定（保育の必要性の認定申請）」と「入所申込」の手続きが必要です。詳しくは町HPをご覧ください。詳しくは町HPをご覧ください。

▼二次募集期間 12月1日（木）～令和5年1月31日（火）  
※期間内に提出が間に合わない方や必要書類に不備がある方は、三次募集（令和5年2月1日開始）以降での受付となります。

### ▼問合せ

- ・子ども未来課子ども係（ゆとろ内・☎ 23 - 3024）
- ・認定こども園おとぎのくに（☎ 26 - 2353）
- ・認定こども園当別夢の国幼稚園（☎ 23 - 2381）

## 子育て支援センター からのお知らせ

親子で楽しく遊ぶことができる「あそびのひろば」にぜひお越しください。育児相談や、お子さんの足形・手形の成長記念プレート作成も随時行っています。

- ▼開設時間 平日9時～12時
- ▼場所 ゆとろ、認定こども園おとぎのくに内 すみれルーム
- ▼申込み方法 電話、窓口、町HPまたは下記QRコード
- ▼申込み・問合せ 子ども未来課子育てサポート係（ゆとろ内・☎ 25 - 2658）

申込み用  
QRコード→



## 医療大学連携講座 健康寿命の延ばし方

セラチューブ（ゴムチューブ）を使って普段は使われない筋肉への刺激方法を学びます。さらに、衰えない体づくりに必要な栄養素について学びます。

- ▼日時 12月23日（金）10時～12時
- ▼会場 ゆとろ
- ▼参加料 無料
- ▼定員 町内在住の先着10名
- ▼申込期限 12月9日（金）
- ▼問合せ 社会教育課社会教育係（☎ 22 - 3834）

## 図書館企画第26弾！

### クリスマス・お正月特集

今年も早いものであと1ヵ月となりました。素敵なクリスマスを迎え、そして新しい年をようこそ！クリスマスやお正月の絵本をぜひ、ご覧ください。

- ▼期間 12月29日（木）まで
- ▼問合せ 当別町図書館（☎ 23 - 0573）

## レクサンド市で町小学生の書道作品を展示



姉妹都市提携35周年交流事業の一環として、レクサンド市において開催された展示会で、とうべつ学園および西当別小学校の3～6年生が制作した約200点の書道作品が披露されました。

## 木育（もくいく） 授業を行いました



9月30日にとうべつ学園5年生が木育授業を受けました。この授業は、木とふれあい、木に学び、木と生きることへの理解を深める「木育」を普及する木育マイスターを講師に迎えて行われ、児童は実際に森に入り木の葉を集め、種類や特徴の違いなどについて学習。また、授業の最後には当別町産の木材を使用し、土台の板にひらがなのパーツを張り付けたネームプレートの「たんけんバッジ」を作成しました。



### 当別町図書館【一般書】

- ・「夢をかなえるゾウ（0）ガネーシャと夢を食べるバク」 水野 敬也
  - ・「ひかりの魔女 きっちゃんの巻」 山本 甲士
- ### 西当別分館【児童書】
- ・「ひつついた！！」 きど まや ※あたらしい創作絵本大賞受賞作品
  - ・「しんぱいザウルスくん だいじょうぶだいじょうぶ」 レイチェル・ブライト

### ▼問合せ

当別町図書館（☎ 23 - 0573）

# 歴史余話

# とらべつ

## 第24回 簡易軌道当別線

旭川工業高等専門学校 名誉教授

平野 友彦

簡易軌道当別線は、札沼線、江當軌道(民営、江別・当別間、昭和2~9年運行)とともに、当別を走った鉄路の一つである。

簡易軌道とは、戦前は殖民軌道と呼ばれ、交通不便な北海道奥地の拓地殖民のために敷設された。レール幅は762mm(JR在来線は1067mm)と狭く、施設は簡易で、建設、運営上のコストが低く、「道路の代替」という位置づけであった。それ故、鉄道法や軌道法ではなく、土地改良法によって運行された。拓殖の利便性に重きが置かれ、施設の建設、維持は国が行い、運行は利用者に任された(釧路市立博物館『釧路・根室の簡易軌道』)。

当別線は、青山奥地の戦後開拓のために敷設された。運行開始は昭和22年6月、停留場は当別から大袋までの15カ所、全線約31kmであった。当初、運営は運行組合(組合長は町長)が行ったが、同28年に農林省との協定で町営となった。しかし負担が大きく、同31年、町は協定を破棄し運行は終了した(『当別町史』)。

簡易軌道は、「開拓民の夢を乗せ」していただけでなく、遠足などにも利用されたが、雪害や風水害に弱く、運休も多かったという(広報特集「当別を走る鉄道」、「青山の今昔物語」)。実際の運行状況はどうだったのであろうか。

町営に当たり、役場には軌道係が設置され、国から機関車4台、客車2台、貨車90台、橋梁17、枕木5万7500、建物11棟などが移管された(昭和28.12.5広報)。動力はガソリンとディーゼルで、旅

客と物資を輸送した。

昭和29年度事務報告によると、物資は木材、木炭、薪、砂利、農産資材、農産物、畜産物、日用雑貨、自転車などで、このうち木材が最も多く、次いで砂利であった。旅客には「定期旅客」と「臨時旅客」があり、前者は当別―二番川間(所要時間2時間15分)で運行され、1日3往復(当別―青山中央間2往復、当別―二番川間1往復)であった。下り始発(当別)は8:00、上り(二番川)は5:40であった(昭和29.5.1広報)。旅客数は9665人、134万5632円の収入を得た。29年の運行日数は247日で、1日平均約160.5人の利用であった(30年度は平均約238.4人)。「臨時旅客」には、北海道からの要請で輸送した、阿蘇岩山に開設された米軍レーダー基地の労務者が含まれていた。

実働9年で消えた鉄路であったが、積雪や流入した土砂の除去、水害で破損した橋脚の修理など、軌道の保全には少ない人数ながら、「一日も早く奥地への開通をなすべく」関係者の並々ならぬ努力があった。こうした努力によって、一時期でも開拓民の夢と、地域の人々の日常生活が支えられたのである。



木材を運ぶ簡易軌道(『当別町史』より)